

会 議 録

会 議 名	令和2年度第2回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	令和2年10月12日(月) 午後3時から4時まで		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 日高委員 中嶋委員 井上委員 住野委員		
欠 席 委 員	大熊委員		
事 務 局 員	関生涯学習課長 杉村文化財係長 高木主事(学芸員)		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	無
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 議 題</p> <p>(1) 「小金井市史年表・索引編」について</p> <p>(2) 「市史編纂資料第60編石造物調査報告(1)」について</p> <p>2 報 告</p> <p>(1) 調査員の活動について</p> <p>(2) 市民協力員の活動について</p> <p>3 その他</p> <p>4 次回の会議日程</p> <p style="padding-left: 2em;">第3回 令和3年3月8日(月)午後3時～</p> <p style="padding-left: 2em;">於：市役所第二庁舎8階801会議室</p> <p>5 配付資料</p> <p>(1) 小金井市史関連刊行物計画概要 資料1</p> <p>(2) 小金井市史年表・索引編要綱(案) 資料2</p> <p>(3) 小金井市史 年表編(見本) 資料3</p> <p>(4) 小金井市史 索引編(参考資料) 資料4、5</p> <p>(5) 小金井市史編纂資料第60編「石造物調査報告(1)」 掲載候補一覧 資料6</p> <p>(6) 小金井市史編纂資料第61編「石造物調査報告(2)」 掲載候補一覧 資料7</p> <p>(7) 小金井の教育令和2年版、月刊こうみんかん9,10月号</p>		

会 議 結 果

- 関生涯学習課長 大熊委員は所用により欠席させていただきます。
市史編さん委員会条例第3条第3項に基づき、市の職員として住野副市長に本日ご出席いただいておりますので挨拶をお願いします。
- 住野委員 副市長の住野です。
小金井市は市制60年ですけれど、旧石器時代から現在に至るまでの間ということで市史編さんをしていただいて、先生方の知見を賜ったおかげで何とか形が出来上がりました。今後どうやって対外的に示していくのか、効果的に見せていくのかといったフレーズに入っていると思います。
今後ともご指導賜りたく、しっかりと公務を果たしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。
- 根岸委員長 市史編さんも通史ができて、今後どうやって新しく編さん活動を続けていくか、小金井の歴史文化のすばらしさを市民の方に分かってもらうかが今後の課題になっていくかと思えます。記録や資料をきちんと保存し後世に伝えながら、さらに新しい市の歴史を作り直していく作業が常に必要だと思えます。他の市町村だと市史編さんが通史まで終わると、そこで編さん事業は終わりということで会は解散しているのですが、小金井では昭和40年頃からずっと継続しているというところが、他の市にはない良さだと思えます。

1 議 題

(1)「小金井市史 年表・索引編」について（資料1～6）

- 関生涯学習課長 これまで小金井市が取り組んできた市史編さん事業の経過、さらに、今後の展開について、総括的にお話しさせていただき、担当から年表・索引編の今後の具体的な編集作業などをお話いたします。
本市の市史編さん事業については、平成19年に市史編さん条例を改正したことを機として、平成20年度から取り組んできたところであり、平成30年度に通史編及び資料編考古・中世を刊行したことで、大きな区切りとなりました。
本を刊行して終わりではなく、市史編さん事業で調査・研究してきた成果を、さらに、別の形として次の時代へ継承し、多くの市民が、とりわけ、これからの担う子どもたちが郷土愛をさらに深めてもらうことを目的として、今年度を初年度として向こう10年間の刊行物の計画を立てております。
今年度は、石造物に関するブックレット（文化財保護事業）及び石造物調査報告書を刊行する予定であり、来年度は市史年表・索引編の刊行を予定しております。
年表・索引編については、今年度と来年度の2か年にかけて取り組んでいるところであり、現在鋭意作業を進めているところでございます。
続きまして、この委員会に先立ち行いました、年表・索引編の編集会議の結果報告も交えて、今後の編集方針など、担当から報告させていた

できます。

高木主事(学芸員)

「小金井市史年表・索引編」については来年度中の刊行を予定しています。編集委員会議を行いまして、その結果は資料2に反映しております。基本的な体裁は、A5判、400頁、500部、1色、表装は布クロス張り、箱付き、1冊の中に年表編と索引編という異なる内容のものをまとめていきます。

これまでの市史編さん事業の過程で、様々な資料等を収集してその成果を市史通史編並びに資料編として公開してきたところですが、あらゆる時代の各分野の記述を、年表という形で時系列順に編集しなおします。

—資料3の説明—

編集委員会議の中では横書きの方向で進めていますが、市史編さん委員会において改めてご審議いただき、そのうえで作業を進めていきたいと思っています。

続きまして索引編です(資料3)。

今後のスケジュールは、第3回市史編さん委員会で、索引をある程度詰めたものをお示ししたいと思っています。年表編についてはお時間いただいて、次年度に調整をしたうえでお示しできればと思っています。

根岸委員長

年表編と索引編を一冊にして次年度出すということですが、本来でしたら市史の通史編と一緒に載せるはずでしたが、通史編の編集過程で間に合わないということと、やはりきちんと確認しながら事項等も考える必要があるということで、このような形になりました。これができることにより、市史の通史編を補完して更に使いやすくなる、幅広い年齢層に利用されるように工夫する、また年表によって歴史の流れがよく分かる、というような役割があるのではと思います。

先ほど編集委員が集まって検討したところ、A5判横書きで見開きにすること、枠を作って小金井に関する事項、日本や世界に関する事項を分けて記載すること、図や写真を入れて親しみやすくすること等の意見が出されました。

年表編についてご意見、あるいは先ほど編集委員会での検討内容についての補足等ありませんか。

井上委員

年表資料3の4頁、小金井に関する記述は明朝体で日本に関する記述は違う字体ということですが、内容的に、小金井に関する事項と日本の事項が意外と区別が付きにくいのではないかと。また、これくらいの間隔を空けての記載なら、小金井とその他の事項を枠で分けなくても良いかと思っています。

根岸委員長

小金井に関する事項と日本に関する事項の振り分け、縦書き横書きについて色々ご意見ございました。

住野委員

私は東京都からの出向でして、以前まちづくりを扱っている部署にいたときに、江戸開府150年東京の都市計画100年ということで、そのときも年表が大事だということでした。確かそのときも横書きで見や

すくする形で作製していました。

根岸委員長 次に索引編について、まだ先ほどの事務局の説明のように確定していない部分もありますので、もう少し分野ごとに詰めていく作業もしなければなりません。

井上委員 人名・地名・事項名ごとに索引を作るということでしたが、時代別に分けるのですか。

根岸委員長 いいえ、全部一緒にするつもりです。

井上委員 たとえば「野川遺跡」だと事項名ですが「野川」だと地名ですよ。そのあたりはどう整理していくのですか。

根岸委員長 編集委員会でも議論になりまして検討しております。

住野委員 似たような言葉があってどれかを選ぶときも、誰が読むのか対象とする相手によって選ぶ言葉が変わってくると思います。東京の都市計画100年のときは専門家を対象にするか、広く一般の方か、外国の方にも広げるか等で議論がありました。

根岸委員長 小中高校生が引くことも考えながら作業していかなければいけないなどと思います。

それでは、編集委員会でも今後更に詰めていくことになりますけれど、このような形で年表編索引編を作ることはご承認いただけますでしょうか。

委員 (承認)

(2)「市史編纂資料第60編石造物調査報告(1)」について(資料6)

高木主事(学芸員) 議題2の市史編纂資料第60編の編集状況についてご説明します。

今年度及び来年度は2か年の計画で、市内の石造物の調査報告を出す予定です。この調査は以前から粛々と進めてきたところですが一定の調査成果が上がりましたので、石造物の基礎資料ということで活字にして公開することといたします。市民協力員、調査員の方にもご協力いただいて蓄積した膨大なデータをここで出すことで、市内に残されている地蔵や記念碑等様々歴史ある石造物を、市史編さんの視点から調査したうえで地域の遺産として保存していくという、これは文化財保護にも繋がる考え方ですので市史編さんの成果として出していきたいと思っています。2冊は地域で分けております。(1)は本町、緑町、中町、前原町、(2)は桜町、関野町、梶野町、東町、貫井北町、貫井南町です。この分け方の理由は、ひとつは旧字、又は旧村、村、新田を基準にしています。(1)では概ね旧小金井村の範囲を取り上げています。(2)はその他新田、梶野新田、関野新田等、及び貫井村です。時代については原則江戸時代以降としています。進捗としては(1)については鋭意編集中で、今年度末には刊行する予定です。

根岸委員長 石造物の調査報告を、碑名や碑文、写真を付けて、2年に渡り刊行するという事です。

刊行自体はいいことだと思いますが、昭和の終わり、市町村史の刊行が盛だった頃こういう報告書を作ると盗まれていくという話を、よく

聞いたことがありますして、そういうものに対する対策等も検討していただければと思います。本来文化財の問題でしょうけど、市史として刊行するので、そのあたりの責任も出るかもしれません。

関生涯学習課長

行政としては文化財について情報を発信することは使命だと思っているのですが、お話しいただいたように責任が伴ってくることもあるということ肝に銘じたいと思います。

日高委員

市の方で把握していると思いますが、内容的に差別的なことに係るものなどは精査されてから作ってください。

2 報告

(1) 調査員の活動について

(2) 市民協力員の活動について

高木主事(学芸員)

(1) 調査員の活動についてです。近代を中心に現代史の、小金井市に関する史資料の調査収集、また各所蔵機関に於ける小金井市に関わる資料の所蔵確認、及び必要に応じて収集をしていただいています。

次に(2)市民協力員の活動についてです。現在、閑野さん、美谷島さんの2名です。それぞれ地域に精通している方ですので、得意分野に基づいて活動していただいています。閑野さんはこれまで石造物の調査に尽力されており、進行中の市史編さんの編集も含めてご協力いただいております。美谷島さんについては、また別の視点で、江戸時代の古文書の整理、調査を中心に活動していただいております、まだ膨大な資料がある梶野家文書の調査等にもご協力いただいております。

根岸委員長

専門的な見地から調査いただく調査員と市民のご協力のもと、現在市史編さん事業を進めていますので、今後も引き続きこれらの方々をお願いしたいと思います。

3 その他

高木主事(学芸員)

以前市民協力員として活動されていた畑野から資料提供がございました。私的に調査研究をされていますが、特に近代、現代の市内の実業家、資産家、軍事関係者等に関する細かな出来事等を整理してくださっています。